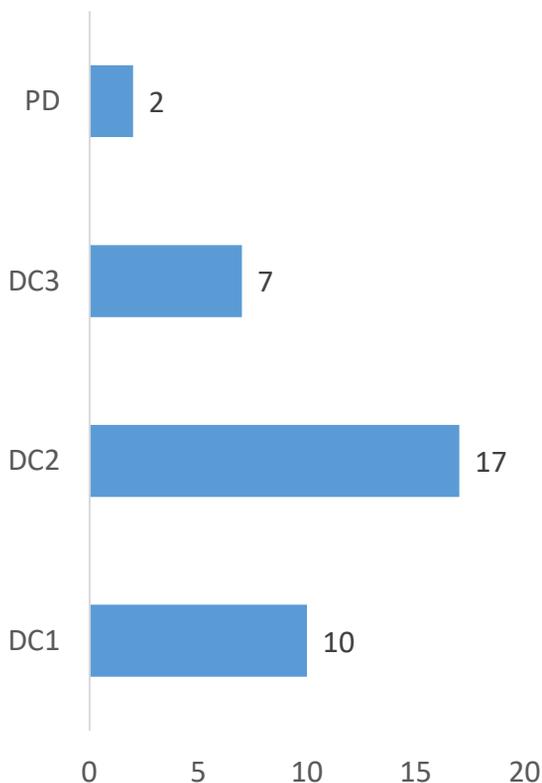


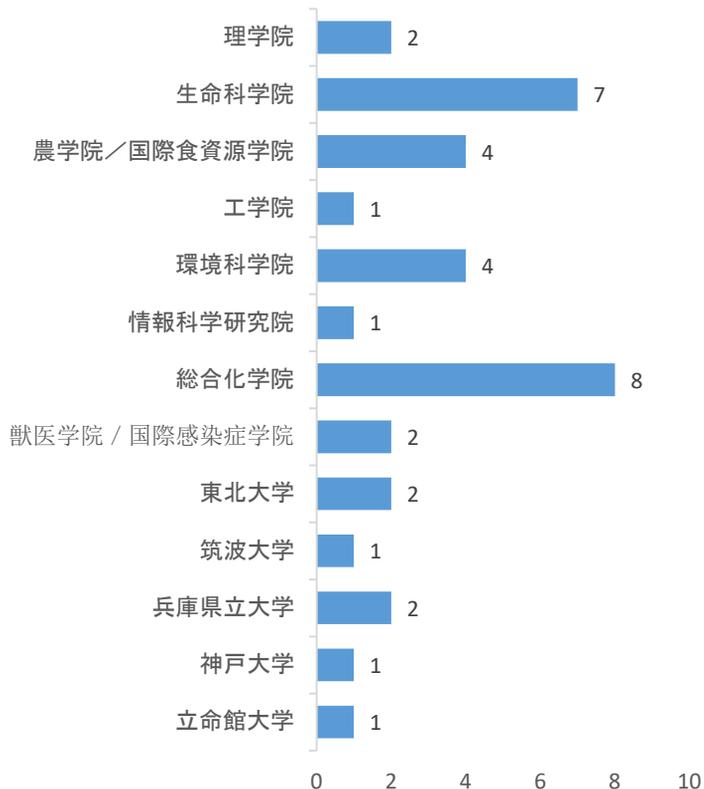
第49回（R4第1回）赤い糸会（ONLINE）アンケート

[1] 回答者：博士人材36名・企業17名（参加者：博士人材36名・企業17社）

博士人材学年

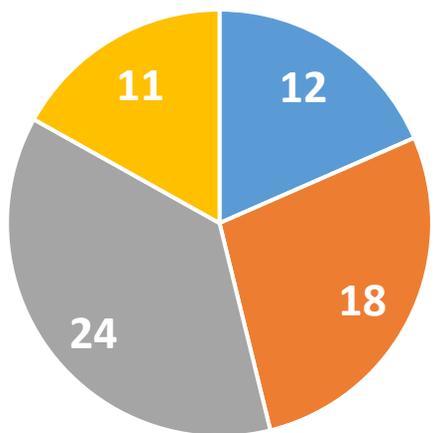


博士人材所属



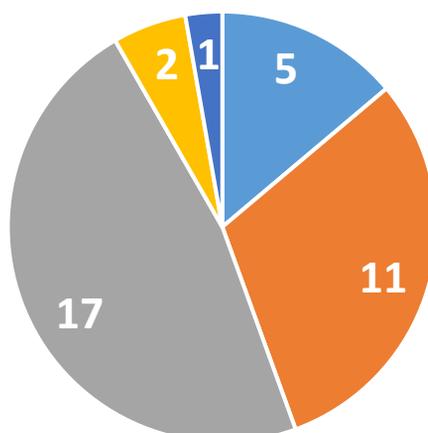
[2] 博士人材プレゼンテーション

アピールできた点(博士人材)



■ プレゼン技法
■ 専門性
■ 人物・個性・特徴
■ パワーポイント・資料作成能力

注目する点(企業)

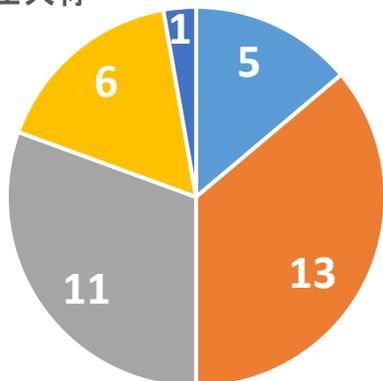


■ プレゼン技法
■ 専門性
■ 人物・個性・特徴
■ パワーポイント・資料作成能力
■ その他

[3] 企業／博士人材とコンタクトがとれましたか？

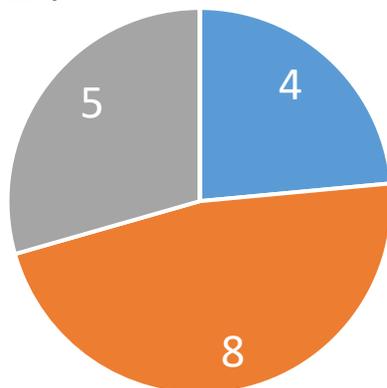
■連絡先一覧を使用してのコンタクトについて

博士人材



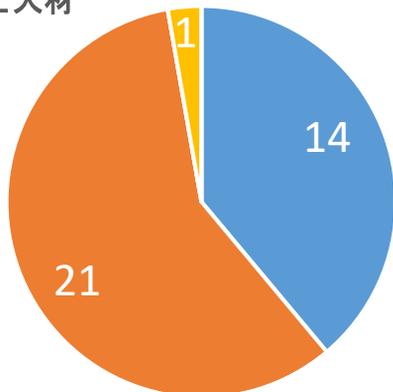
- 1. 十分コンタクトがとれた
- 2. ある程度はコンタクトがとれた
- 3. あまりコンタクトがとれなかった
- 4. 全くコンタクトがとれなかった
- その他...

企業



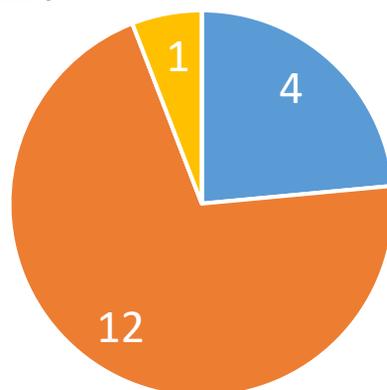
■Zoom(企業ルーム交流会)でのコンタクトについて

博士人材



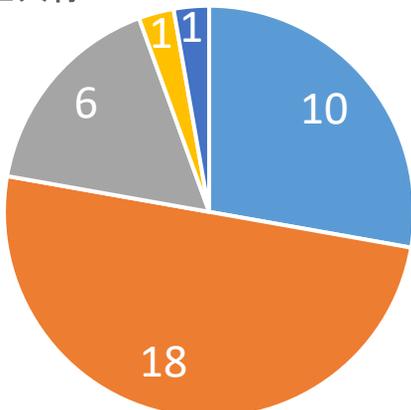
- 1. 十分コンタクトがとれた
- 2. ある程度はコンタクトがとれた
- 3. あまりコンタクトがとれなかった
- 4. 全くコンタクトがとれなかった
- その他...

企業



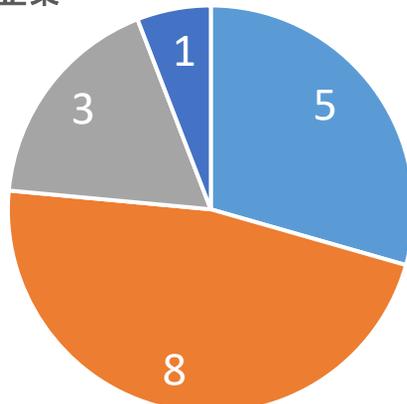
■SpatialChat(懇親会)でのコンタクトについて

博士人材



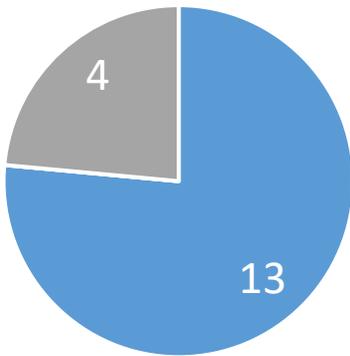
- 1. 十分コンタクトがとれた
- 2. ある程度はコンタクトがとれた
- 3. あまりコンタクトがとれなかった
- 4. 全くコンタクトがとれなかった
- その他...

企業



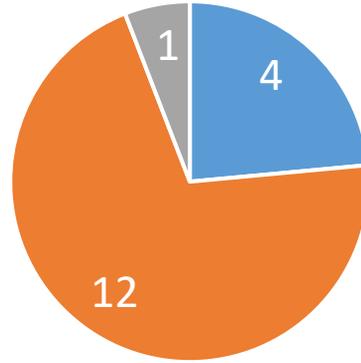
[4] 企業のみ

参加博士人材について



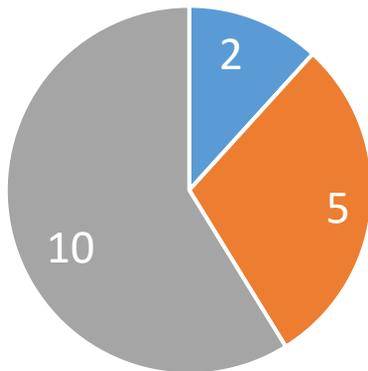
- 1. 興味のある研究内容の博士人材が多い
- 2. 興味のある研究内容の博士人材が少ない
- 3. どちらでもない

参加博士人材に対する今後の対応をお聞かせください



- 1. 採用したい博士人材がいたので、今後交渉を進めたい
- 2. 採用については未定だが、今後もコンタクトを取りたい博士人材がいた
- 3. コンタクトを取りたい博士人材はいない

DC・PDのインターンシップ(1ヵ月位)について

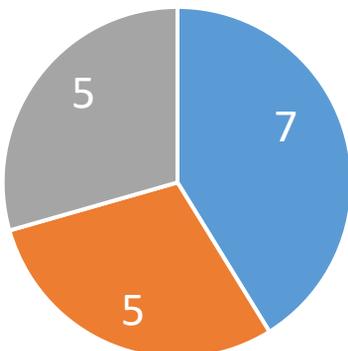


- 1. 受け入れを表明している
- 2. 受け入れてもよい
- 3. 受け入れは難しい

「3.受け入れは難しい」を選択された方：
差し支えなければ、理由をお教えてください。

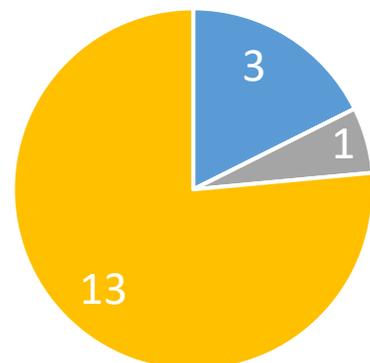
実施していないため
現時点においては、リソースの観点から難しく、今後は検討させていただきたいとかがえております。
現場(研究所)の社内工数が十分に確保できない、また、機密事項の取り扱いが難しい。
開催予定のインターンシップがありますが半日から長くて5日位となります。
現在対応を継続検討しており、直近での受け入れは難しい状況です
コロナ禍で現場への立ち入りが厳しく制限されているため。
受け入れはDCに限定しております。ご理解ください。
インターンシップは英国本社のみで実施しているため
新型コロナウイルスの感染拡大防止のため
受け入れ体制が整っていない状況です

DC採用について



- 1. 定期的に採用したい
- 2. 時期に関わらず、採用したい
- 3. 採用については未定

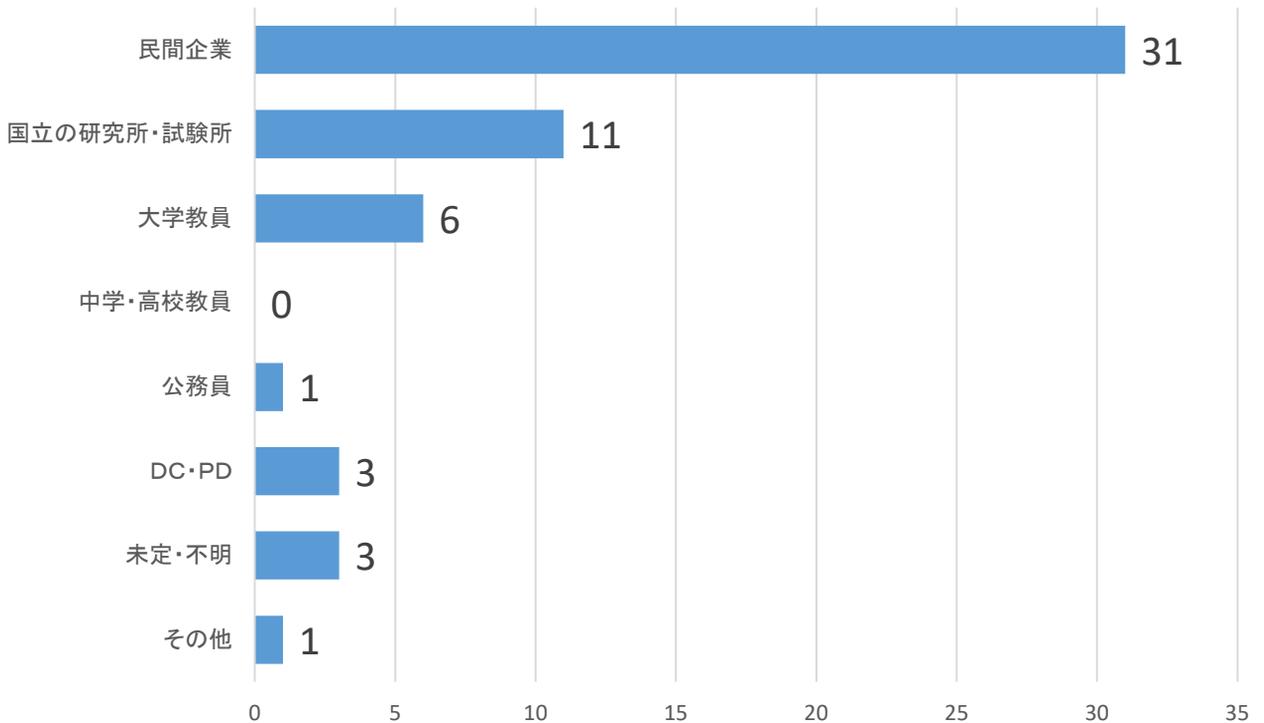
Hi-System(博士人材と企業の双方向ネットワーク)はどのように利用していますか？



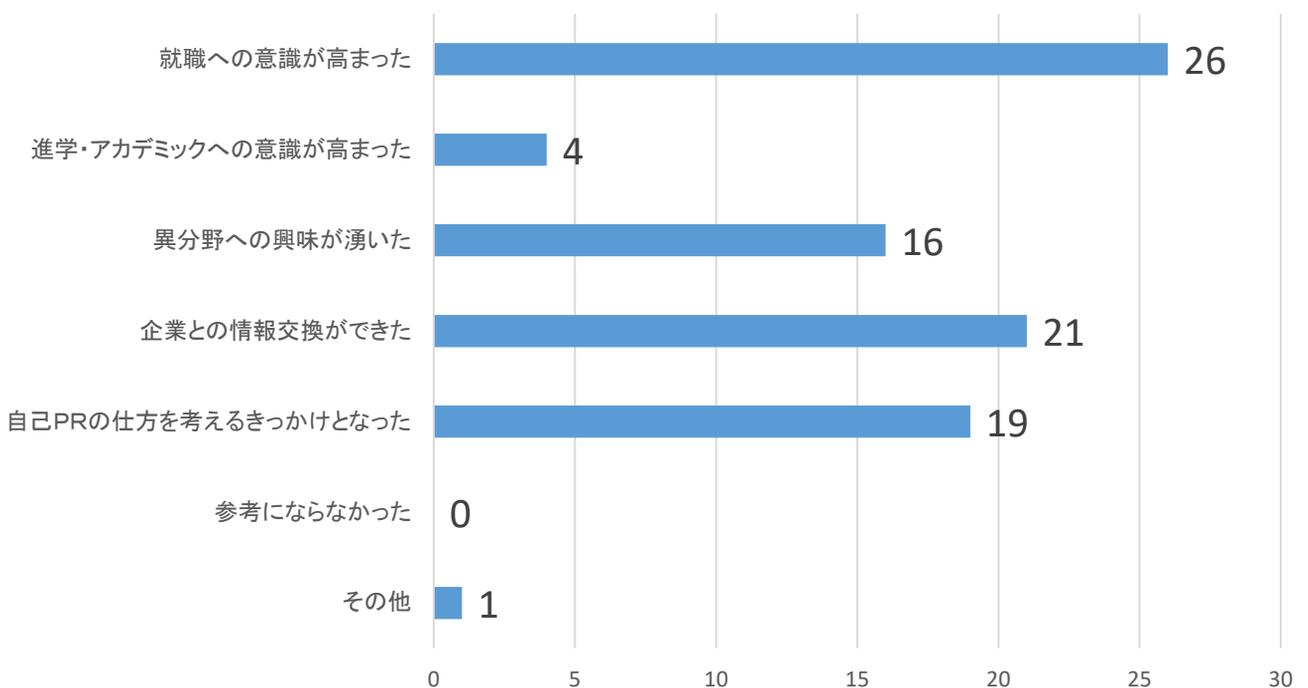
- 1. イベント参加
- 2. コミュニティ
- 3. 博士人材検索
- 4. 利用していない

[5] 博士人材のみ

あなたは、今後のキャリアパスをどのように考えていますか？（複数回答可）



「赤い糸ONLINE」は、進路決定の参考になりましたか？（複数回答可）



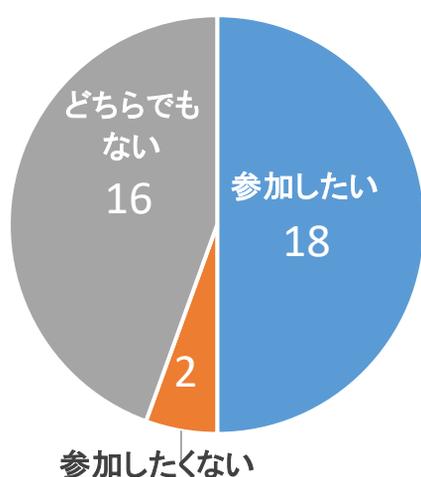
[6] 「赤い糸ONLINE」に参加して新たな気づきはありましたか。
それはどのようなことですか。（博士人材のみ）

1	様々な専門分野の学生を採用している会社があるということ。
2	企業のスタンスに違いがあることに気づいた。リクルートを目的としているようなところもあれば、単に説明会の一環のような企業もあった。
3	専門と必ずしも一致していなくても博士人材の能力を欲している企業があるというのが分かり、アカデミア以外にも自分が活躍できる場があるかもしれないと思えた。一方で、完全に専門と合致した人を欲している企業もあり、そのあたりのマッチングが重要なのだと認識した。
4	これまでは自身の専攻である物理化学から就職をするのかなと漠然と考えていたが、企業が求めている博士人材は分野とかではなくその能力を見ていると感じたこと。自分で自分の可能性をつぶすような考え方をしていたと気づかされた。
5	研究活動と就職活動のつながりに不安を感じてい他が、自身の行動次第で応えてくれる企業や団体が存在することに気づき始めたように感じた。
6	化学専攻であったが、医薬品業界においても自分の専攻が大いに役に立つこと、大学での専攻に縛られずに就職先を広げることが可能なことを実感として感じられた。
7	自分の企業に対しての不明確な部分がやや明らかになった。今回の赤い糸会で自分の準備の点において何が足りていないのか知ることができたので、次への一步を踏み出す良い機会となった。
8	専門分野にとらわれず就活できること
9	自身の学んできた専門性を活かせる分野が意外と多いこと
10	就活をする上で考えなければいけないことや、調べなければいけないことに気づいた点でよかった。
11	就活を続けていくうちに、狭い範囲でしか志望企業を考えておらず、改めて他分野の企業でも自分の活躍できる場があることに気づけた。
12	他の学生や企業の熱意を感じることができ、今後の就職活動や研究生生活の指針が新たにできました。
13	同じプレゼンを複数回行って様々な企業の方に聞いていただいたが、毎回同じような質問をいただいたのが印象的だった。企業の方が採用時に見るポイントや博士人材に求める姿が分かった。
14	実際に話してみると、自分がやりたい事と企業のやりたい事がマッチしていればしているほど話が盛り上がり、相手も親身に相談にのっていただけということが分かり、就活はこういうものなのだということがより明確にわかるようになった。また、想像以上に自分の専門性が完全にマッチする学生を求めている企業は少数だということがよく分かった。
15	短い時間でいかに自分を魅せられるかという部分でとても考えさせられる機会になった。就活のみならず今後のキャリアに活かしたい。
16	研究内容、自己PRプレゼン後の質問に端的に答えることができなかった。自身の意見や考えを端的に分かりやすく伝える練習を積む必要があると改めて感じた。
17	・同じ内容のプレゼンをもとに複数の企業と議論しても、各企業によって質問の視点がかかなり幅広いこと。使えるスキルを深掘りして聞く企業と研究への取り組みを聞く企業、研究の将来性を聞く企業では、採用で重視するポイントも差があるだろうと思った。・企業の方が自分(博士学生)に興味を持ってくださっていて、対等に親身に交流して下さること。(修士就活の経験で、企業は選ぶ立場・自分たちは審査される立場、というイメージを強く持ち過ぎていた。皆さんとてもフランクで楽しい交流だった。)

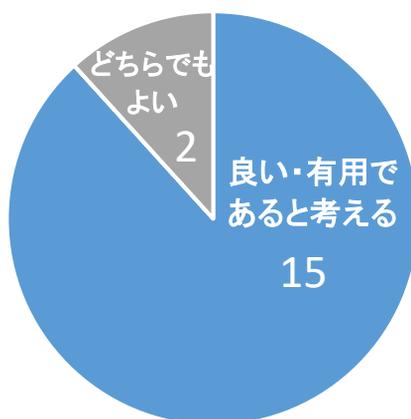
18	一見すると自らの専門性に関係ないように感じる企業でも、専門性を生かした業務に携われる可能性。
19	相手に伝える情報をいかに最小限に納めることを知ることができました。
20	採用担当の人達の興味が企業によって異なること。
21	プレゼンした際、研究のチームプレイに関する質問がほぼ毎回来たので、チームでの研究への意識を試されているのだなあという気づきがあった。話してみると思いのほか企業ごとのカラーが随分異なることに驚いた。自分の質問の質の低さ、また質問に対する回答の下手くそさを認識できた。
22	<p>専門性について 博士プレゼンやその後のメールにおいて、「専門性」という点について質問されたり、身につけることを期待されていると感じた。個人的に、技術や知識の専門性とは相対的なものであると感じているため、企業の方が期待する「専門性」とは具体的にどのようなものを指すのか、また自分は今後どのような専門性を身につけたいのかということを考えるきっかけになった。</p> <p>進路について 今回赤い系会に参加し、企業の方から「あなたはアカデミアの方が向いているかもしれない」というコメントをいただいたことがとても印象に残った。その際に、企業研究とアカデミアの違いをざっくりとお話いただいた。改めて進路を考えるきっかけとなった。</p>
23	文系企業でもデジタル化を進めている
24	企業の方が自分の研究をどのように見るかの視点について分かった。
25	自己PRのさいに企業として必要な情報をどのように詰め込むかについて

[7] 東北大学・名古屋大学・北海道大学におけるコンソーシアム（全12大学）の取組みで、本会のような各大学マッチングイベントに連携大学の学生が参加していることについて

博士人材



企業



コンソーシアム(全12大学)の取組みについてご意見がございましたらお聞かせください。

Webの良さを生かして、各大学で個別に博士採用イベントを開くよりは、全大学で集約して年に数回とかの頻度でイベント開催を検討いただけないか。

非常に有用な取り組みだと思うので、対象となる大学を増やして継続して欲しいです。

他大学のイベントに参加して自分のキャリアを探す積極性を評価できる

他の大学さんとも連携して、広げていくとさらに良いと感じました。

今後もぜひこうした取り組みをひろげていただきたいです。

[8] 今後、博士人材へ期待すること・要望など（企業のみ）

1	リーダーシップ
2	専門性だけでなく、テーマを俯瞰できる力、自ら切り開く力を期待します。
3	ご自身の研究をどのように行ってきたかという点が一番のアピールになると思います。それをロジカルの自分のものとしてお話できることを期待しています。
4	専門性を深めていただくと同時に、論理的思考力や研究の進め方等のスキルを活用して、専門外の分野の企業も柔軟に検討いただくと、更に視野やチャンスが広がるのではないかと感じました。
5	ぜひ広い視野で、これまでの成果を今後に役立てていってください。みなさんの将来に期待しています。弊社は研究や専門の延長にはないと思いますが、多様な取り組みをしていますので、興味を持てることがありましたらいつでもお知らせください。
6	博士課程でしか経験できない研究があると思いますので是非充実した学生生活を送っていただきたい。
7	目の前の研究を通じて研究遂行能力をより高めてほしい
8	サイエンスに基づく高い課題解決力、洞察力、考察力。広い視野、高い視座で物事に取り組めること。
9	リーダーシップと技術融合する力、それを駆使して新しい学術分野、新しい事業創造など世の中を変革していく中に自らが居ると意識
10	今の研究で専門性を磨くことが第一ですが、視野を広くもつことや他日常に触れることなども大切にしてください。
11	研究推進力、高い専門性とリーダーシップの発揮を期待しています。
12	新しい風を吹かせて欲しい
13	ハードルは高いが日本国外での就職も検討して頂きたい
14	期待することはその時その時で変化しますが、1つの学術領域の理解をしっかりと深めて下さい。
15	主体的に研究を進める力(主体性、論理的思考力など)
16	博士論文テーマの領域に拘るのではなく、課題設定を含めた自身の研究遂行能力を武器に、様々な分野で活躍してほしい。
17	ご自身の研究に力を注いでいただきたいです。

[9] 全体を通して、「赤い糸会」（赤い糸ONLINE）についての意見、要望など

博士人材

1	博士プレゼンをしているからには少し採用に考慮してもらいたい。
2	感想ですが、赤い糸会とても面白かったし役にも立ちました。参加して本当に良かったと思います。今までアカデミアのことしか考えていませんでしたが、思ったよりも外に活躍の場があるかもしれないと気づききっかけになりました。最初にお声がけいただいた吉原先生はじめ、ご担当者の皆様ありがとうございました！！
3	企業との接点や異分野を業種(研究)を知る良い機会になりました。
4	新型コロナ感染症の流行が治まるなど、対面開催ができるようになれば対面での開催をお願いいたします。
5	少しプレゼン交流の時間が短く感じたので時間を8分から10分に伸ばしてほしいです。
6	企業ルーム交流会について、「学生側の質問タイム」という印象を受ける企業が数社あった。学生1人対企業の方5名の中で、20分間こちらから質問をするだけというのはかなり厳しい場面があったので、双方向でお話ができたらよかった。
7	もっと早く赤い糸会の存在に気づければよかった
8	開催時期を早めていただきたいです。就活とバッティングしており両立が難しかったです。

企業

1	将来有望な人材と多く出会えました。ありがとうございました。
2	スケジュールが少しタイトでした。
3	とても良い取り組みだと思いますので、ぜひ続けて欲しいです。
4	交流～懇親まで、どの時間も積極的にご質問等頂き、多くの優秀な学生様と交流できる貴重な機会となりました。本日は誠にありがとうございました。
5	学生のみなさまと直接お話しできる時間を長くとっていただき、大変有意義な時間でした。「なぜ朝日新聞が？」との疑問をもちながらも声をかけていただいて、楽しくお話しできた方も複数いらっしゃいます。ありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。
6	多くの学生さんに会社に興味をもっていただき、お話しする機会がありました。また会の後にも学生さんからご連絡いただいたりもしました。感謝いたします。
7	今回もよいイベントでした。ありがとうございました。

企業

8	全体の進行もとてもスムーズで、十分に学生と双方向の交流ができました。ご企画いただきありがとうございました。
9	企業にとっても、学生にとっても相互理解するのによい機会を提供していると思います。もう少しコミュニケーションが取れる工夫など改善点もあると思いますが、継続してより良い制度になると期待しています。
10	毎年、試行錯誤で企画していただきありがとうございます。1on1で設定していただいていたので、タイミングが合わずにルームに行けなかった学生さんに対しても申し訳なかったなと感じています。一方、お話を伺った方でも、限られた時間であったため、お話の途中で切れてしまうことも多々ありました。ただ、1日午後のみという時間設定であったためその中でも工夫して下さった結果と感じています。
11	研究や将来に関して熱意ある人材の方と毎年接点を持つ機会を頂きありがとうございます。次年度もぜひこのような機会を頂戴し、博士人材の方との意見交換によって少しでもキャリア形成のお役に立てれば幸いです。よろしくお願いします。
12	プレゼン時間が短かったように思う。魅力的な人物がどうか分からなかった。
13	毎回内容を良く考えられた会を実施しているかと思います。今回のSpecial Chatも新たな試みということで良いと思いますが、実際に交流までには至りませんでした。(弊社側の問題もあるかと思っています)
14	博士プレゼンの時間が短く回数が多くせわしく感じました。
15	先日はありがとうございました。博士のプレゼン発表の際のブレイクアウトルームの割り振りは、結果的に企業が自身で訪問先に入室するのであれば、企業への事前割り当ては不要と考えます。初めから、企業が自身で選択する形で問題ないと考えます。また、SpecialChatの仕組みや使い方が最初は分からず、戸惑いました。簡単な説明があっても良いと思います。
16	もう少し休憩があると助かると感じました。
17	学生さんも皆カメラをオンにしており、事務局の方も空白の時間ができないように工夫していただき、大変有意義な会だったと感じています。

[10] J-window（先端人材育成センター担当教員との面談、エントリーシートなどの添削、面接練習）の利用について

